

研究主題

主体的に動き出し、共に学びをつくりあげる子の育成

下沼部小学校が目指す「主体的に動き出す」姿

下沼部小学校が目指す「共に学びをつくりあげる」姿

サポ	前のめりになって様々な課題に取り組もうとする姿
低学年	めあてを意識し、自分の思いや考えをもったり伝えたりしようとしながら、試行錯誤して対象物と向き合っている姿
中学年	見通しをもち、自分事として問題解決に粘り強く取り組み、純粋にその現象を知りたいがっている姿
高学年	未知の問題を解決していくために、気付きから問題意識をもち、自らの力で問題解決していこうとする姿

サポ	友達や教員と関わり合いながら自分なりの方法で思いを表現しようとする姿
低学年	友達との関わり合いを通して、自分が考えたことや思いついたことの気付きの質を高めている姿
中学年	自分と友達を比べ、どのように考えたかを伝え合う中で、現象への興味を深めたり、既習や生活経験もとに考えたりしている姿
高学年	対話を通して、根拠のある予想、方法や結果から考えられることを話し合い、自分の考えをより妥当（科学的）なものへと変えていこうとする姿

令和4年度の研究の方向性

問題解決のプロセスにおいて、芽生えた問題意識を持続させ、自らの学びを振り返り、解決に向けて主体的に学ぶ子を育成する

他者との対話を通して、より科学的なものに高めて、共に学びを深める子を育成する

研究副題

— 科学の“め”を育てる生活科・理科授業 —



科学の“芽”

科学の“芽”で主体的な問題解決を育てる

自ら事象に働きかけ、気づきや疑問から問題意識が芽生える。事象に繰り返し働きかけ、問題を解決するための見通しをもち、自らの学び方を振り返り確認したり、考え方を変えたり、新しい疑問が生まれたりする等、主体的に動き出す姿を実現する。



授業改善の手立て

A：材・事象との出会い方を工夫する場面をつくる

過去の研究授業提案の参考例)

- ・2年生からのアサガオの種のプレゼント（どうやって育てるの？）
- ・育てた野菜をおいしく食べたい（害虫・鳥・病気どうする？）
- ・モンシロチョウの卵を見つけた（どのように育つの？）
- ・缶ボトルのシャボン玉が膨らんだ（空気なの？水なの？金属？）
- ・うまくくぐり抜けよう雲梯ふりこ（ふりこを速くするには？）

B：繰り返し事象に働きかける場面をつくる

過去の研究授業提案の参考例)

- ・学校探検を繰り返す（何の部屋かな？誰かな？）
- ・町の素敵をみつけよう町探検を繰り返す（店の人の工夫や技）
- ・明かりがつくつなぎ方を繰り返し試す（同じ対象に他の方法で）
- ・水は、空気と同じようにかさが変化するか（同じ目的で対象を変えて）
- ・1日の雲の動きを観測し、天気予想をする。（同じ対象に同じ方法で）

C：自らの学び方を振り返る場面をつくる

過去の研究授業提案の参考例)

- ・おもちゃバージョンアップ（次の授業でやってみたい）
- ・大好きな下沼部の町を大切にしよう（本当の町のよさがわかった）
- ・電流は、同じ向きに同じ大きさで流れている（実験で確信したこと）
- ・雲の動きは、あと何日が調べないと結論がでないよ（新しい問題）
- ・友だちの考えを聞いて、考えが変わった（友達の考えの納得）



科学の“目”

考えをもって対話することで科学の“目”を育てる

自分の思いや考えをもち、他者との対話を通して、見直しを見直したり、共通点を探ったり、新たな方法を見つけたり、より多くの情報を収集して考えの客観性を高めたり、結果が妥当か吟味したりして、共に学びをつくりあげる姿を実現する。



授業改善の手立て

D：自分の考えを広げる目的をもちた話し合いの場面をつくる

『広げる対話』

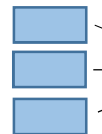


子どもの姿の例)

- 「その可能性も考えられるね」
- 「たしかにそれもそうだね」
- 「これもそうじゃない？」
- 「こっちのほうがいいんじゃない？」

E：自分の考えをまとめる目的をもちた話し合いの場面をつくる

『まとめる対話』



子どもの姿の例)

- 「本当にそれでいいのかな？」
- 「そういえるんじゃないかな」
- 「そう考えられそうだね」
- 「こう考えるのが良さそうだね」

※実証性・再現性・客観性の視点が含まれること

